

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400832		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵 発寒		
所在地	札幌市西区発寒2条2丁目3番20号		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170400832-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◆私たちグループホームが力を入れている点はホームにこもることなく、できるだけ外へ出ることです。思いついたら、車イスの方でもすぐに出かけられる行動力があります。また、地域との交流も定着して、老人クラブの定例会には毎月5~6名参加し、散歩しているといつも地域の方から声をかけられます。また、幼稚園バスの停留所として場を提供したり、散歩の時は火ばさみをもって出かけ、ゴミ拾いをするなど地域貢献にも心掛けています。
さらに、利用者同士の仲間意識があり、和があることです。「和」を保つために、職員は個別支援と同時に利用者同士の関係性の構築のための支援も行っています。「笑い」が免疫力を高めると言われていますが、各ユニットはいつも笑顔や笑い声が絶えず、ここ数年インフルエンザや風邪が蔓延するようなことはありません。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 27 年 11 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「お年寄りも家族も安心して生活ができる場をつくろう」という家族の思いから作られたホームです。共に地域で暮らすというホームの理念通り利用者は挨拶から始まり町内会行事や老人クラブ、演芸大会、清掃活動などに参加し地域住民と楽しみを共有しています。年間を通して外出行事も多く戸外へ出かけられるよう支援しています。医療面では24時間対応の協力医療機関の支援体制や看取りケア体制なども整っており利用者や家族の安心に繋がっています。利用者の暮らしは家族会や運営推進会議で報告があり毎月発行される家族通信でも家族にお知らせしています。代表者、管理者を中心に全職員が良好な人間関係を基盤に利用者本位の介護計画を作成し生活支援を中心とした適切なチームケアが行われています。「介護されるの関係ではなく共に地域で暮らす仲間でありたい」グループホーム蔵の利用者と職員は、明るく日々楽しく共に生活しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、スタッフは、毎週月曜日の朝の申し送り時に、理念を唱和し、実践に向けて努力している。	法人理念とホーム独自の理念「介護する されるの関係ではなく 共に地域で暮らす 仲間でありたい」をホーム内に掲示してあります。職員は毎週月曜日の朝に理念を唱和し、共有して実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事、老人クラブ、川の清掃、新年会などに積極的に参加している。	地域との関係は良好で、町内会行事、演芸大会、老人クラブ、清掃、避難訓練などに職員と一緒に参加し文化祭には作品を出品する他、保育園児の来訪もあり日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症についてテーマにして、理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状、行事、今後の課題なども報告し、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	地域住民、家族、地域包括支援センター職員、利用者、介護予防センター職員、消防署職員が参加し、テーマを決めて2ヵ月に1度開催し報告書も整備し家族にも郵送しています。運営会議での意見をサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と直接話しをする機会はないが、運営推進会議で、地域包括センターの方と情報交換している。	区のグループホーム管理者会議に参加をしたり地域包括支援センターと情報交換をしたりしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関などの施錠はしておらず、独自の身体拘束委員会を設置し、毎月、またはその都度、話し合いケアに取り組んでいる。	年1回身体拘束防止に関する職員研修を行っています。不適切なケアがないかカンファレンスで毎月話し合い、気が付いたことは注意をしたりしながら、日々身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。マニュアルも整備しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内や外部の研修に参加して、学ぶ機会を得て、実施に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修などに参加し、個々の利用者さんの必要性を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者、家族を含め不安や問題点を話し合い理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、または家族会の時、また日頃の来訪時に、意見、要望を聞いて出来る事は反映させている。	年2回の家族会や2ヵ月に1回の運営推進会議、また来訪時に家族の意見や要望を伺い「家族ノート」に記載し、職員間で情報を共有し運営に反映させています。月1回家族通信をユニット毎に発行し利用者の様子や写真、個別のお便りで近況をお知らせしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は代表に対し、主任会議などの中で、一年間の行儀や運営についての意見や提案をし反映している。	月1回主任会議、年6回副主任会議、年3回ケアマネジャー会議、年3回懇親会が代表者も参加して開催されています。ユニット会議には代表者と管理者も参加し、職員の意見や要望を聞く機会を設けており気づきや提案を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表、管理者は、職員一人一人の働きを把握し、良い所は評価して、更に向上心を持って働けるように接してほしい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修も、各スタッフ全員が受講出来るように、配慮してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一年に一度、区内の他のグループホームの管理者、職員と交流がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一日の中で、利用者さんと話す時間を設け、手作業や、チラシ、新聞を見ながら耳を傾けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後、初めての面会時に近況をお話ししている。家族との会話を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後にすぐ基本情報などを、スタッフ間で共有し、毎月、カンファレンスを行い、状況に応じた支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	蔵の理念にもあるように、介護される側の関係ではなく、利用者さんと目線を合わせた介護をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	精神的な病があって、利用者とうまくかかわれない家族など、電話の取り次ぎや他の家族と相談しながら、絆を取り持つ支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、利用者さんとの話しの中で、「昔はこんな所に良く行った」などの話しから、その場所につれて行く支援をしている。	利用者との会話から以前行ったことのある市場やスーパーでの買い物に職員が同行し支援しています。老人クラブ参加を楽しみにしている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなど輪になって、一つのゲームにみんなで参加して関わり合い支えあえるように努めている。壁飾りなども利用者さん同士協力して作りあげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数年に一度、退去家族の方々と家族会を開いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度、全員のカンファレンス、個人カンファレンスを開き、一人一人のペースを大切に、その人の希望、要望の把握に努めている。	利用者との日々の暮らしの中で、会話や表情を通して思いや意向を把握しています。困難な時は基本情報シートを活用しカンファレンスを行い、情報を共有してその人らしい暮らしが継続できるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族にわかる範囲でセンター方式に則って、生活歴、入居前の生活について情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の様子を時系列で、日誌に記入している。夜間と日中でわかりやすいように、色を変えている。夜間、寝ている時間、起きている時間なども色分けしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、本人がよりよく暮らすために、カンファレンスを行い、スタッフ、ケアマネなどと話し合い、意見、アイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の記録は介護計画に沿った記載欄を設け実践、結果、気づきなどが詳細に記載され全職員で共有しています。毎月、総合カンファレンスと利用者一人ひとりのカンファレンスを行い利用者、家族、関係者の意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に変わった事は、日誌の特記事項の欄に、色を変えて記入している。職員全員が情報を絶えず共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人のカンファレンスを通して、その時の状況に応じて必要な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事、老人クラブ、川の清掃、新年会、子どもを見守る会などに積極的に参加し、地域交流を通して、周知してもらい、安全な暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週または毎週、かかりつけの主治医の訪問診療を受けている、まあ、何かあれば、その都度専門医を紹介してもらう。	24時間対応の協力医療機関の往診や、訪問歯科の受診、利用者や家族の希望で他科への受診時は家族と職員が同行し病状を把握するようにしています。職員に看護師経験者が在職しており利用者の健康管理にも努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中で、身体の異常など発見した時は、ただちに看護職員に報告し、適切な指示をもらい、支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本情報や、診療情報提供書などのやりとりをしている。退院時は病院のソーシャルワーカーと情報交換し、早期の受け入れに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは契約時、ターミナルケアについての説明や同意を取っている。いざ看取りの時も、再度、家族、かかりつけ医、管理者と話し合いの上、取り組んでいる。	契約時に医療機関との連携体制や重度化時の対応指針を説明し同意書を交わしています。状態の変化に応じて、家族の気持ちに配慮しながら、医師や管理者と話し合いを持ち全職員が方針を共有連携し慎重に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、社内研修で消防署による、救命救急や応急手当の訓練を行い、実践力を身に付けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回のやかん想定も加えた避難訓練や、春秋には、消防署と連携した総合訓練や消火訓練を行っている。	消防署員立会いの下、年2回地域住民の協力を得て避難訓練を実施しています。自主訓練も年10回は行っています。災害時備蓄品も整備しています。総合訓練時には署員から講評を受け改めて今後の課題を確認しています。	自然災害時での訓練、避難経路や広域避難場所の再確認と家族への周知など、引き続き取り組みに期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導など静かに声をかけ、居室の出入りも声をかけてから入るようにしている。	職員は、利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションの取り方を工夫し人格やプライバシーを損ねない接遇に努めています。個人情報の取り扱いにも十分注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常、入浴の希望や食べたい物など話題にして引き出すようにし、散歩の希望も人員が可能であれば、引き留める事なく付き添っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など、本人が食べるペースに合わせ見守っている。手作業、レクリエーションも利用者さんのその日の希望を聞き、沿ったものやってもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問理美をお願いしている。季節に合った身だしなみになるよう心がけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の野菜の皮むきや、食後の食器すすぎ、食器拭きなど、利用者のレベルに合わせて手伝いをしてもらっている。	食事は彩りよく盛り付けされており、利用者と職員は一緒に食事をし、急がずことなくゆっくりと食事の時間を楽しんでいます。敬老の日は職員が考えたスペシャルランチが用意され利用者の楽しみになっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食べられる量に合わせて、例えば、生野菜が苦手な方には、火を通して食べ易い形にして提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをしている。一人で出来ない利用者は介助している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の中で、時間を決めてトイレに誘導し、排泄の失敗を少なくするよう取り組んでいる。衣服の上げ下げで時間がかかり失敗があるときは、出来るだけ衣服の重ね着がないよう注意している。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間誘導やさりげない声掛けで、トイレでの排泄支援に取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクや体操で身体を動かし、下剤はなるべく使用せず、ヤクルト、のむヨーグルトを飲んでもらい、自然排泄を心がけている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事などがある場合以外は、いつでも入れるようにしている。	週2回を目途に、利用者の希望や体調に応じ日中の時間帯にいつでも入浴できる態勢を整えています。入浴を拒む利用者には声掛けを工夫しながら気分よく入浴して頂けるよう職員同士話し合いながら支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動として、体操、レクを毎日行い、生活リズムに注意しながら、良く眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のお薬情報は、一冊のファイルに綴じ、いつでも、確認出来るようになっている。また、変更がある時は、業務日誌に特記するようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来るような仕事をお願いして、張り合いや喜びを感じられるようにしている。また、ねぎらい感謝の言葉を伝えている。食べたい物がある時や外出がお好きな方には、フリープランとして外食など楽しんでもらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見、紅葉狩りなど、季節を楽しみながら出かけ、地域との交流も兼ねて、老人クラブにも参加している。また、計画になくても、天気が良いと、すぐに外出を実施し、楽しんでもらっている。	年間を通して外出する機会を多く設けています。近隣の散歩をはじめ系列ホームへの行事参加、老人クラブ、花見、紅葉狩り、芋ほり、初詣、大型ショッピングセンターでの買い物、また、天気が良いとすぐに外出を実施し、常に戸外へ出かけられるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人にお金は持たせてはいないが、必要な時は、いつでもおこずかいを渡せる用意はしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの郵便物を手渡したり、希望があれば、電話を取り次ぐ支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁面に、利用者さん手作りで季節な花やお正月、クリスマス、おひな様などかたどって、楽しんでいる。	ホーム内は清潔で不快感はありません。居間の壁には利用者と職員が共同で作成した季節の飾りつけや、近くの保育園児の作品が掲示してあり利用者の心を和ませています。居間兼食堂の中央には大きなテーブルがあり、利用者と職員はテーブルを囲み談笑しています。廊下にはレクリエーションができる工夫もしてあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者さん同士、更に全体が一つになれるような、座席配置を工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や、自分のなじみのもの、また、利用者さんが手芸で作ったものなどを飾っている。	居室には、利用者、家族の意向を尊重し馴染みの家具や調度品を持ち込み、ベッド、可動式クローゼットの配置等を相談しながら利用者が居心地良く過ごせるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには、利用者さんの名前をつけたり、トイレなども大きく表示して、わかりやすいようにしている。			